

ふるさと交友録

～伊藤 公平～ 2

「ふるさと」には、いろいろなひとがいる。この「交友録」では、月1回のペースで公平さんに“大切なひとびと”を紹介していただきます。



島田さんから贈られた田河水泡の色紙。のらくろの表情が少しフケてみえるのが妙。

富山の島田久さんから田河水泡の漫画「のらくろ」の復刻版10巻が届いた。昨年富山を訪れた時会い、身辺整理を始めたと言った島田さんに酔いにまかせて無心したシロモノである。着払いだぞ。いいよーと。しかし全集は島田さん払いで届いた。アスパラを送った。無用心配はするなど島田さん。女房殿がまちがって送ってしまったと私。あとは二人で呵々大笑した。

島田さんは小学校で菅原隆治先生の級だった。北斗高校を卒業。同窓仲間と同人誌「らしん」を発刊した。北陸銀行に勤め、もの書き絵かきの仲間と菅原先生のサロンにあつまって談論風発、これが「河童会」となり、のち「同人誌河童」となる。さらに、なお余りあるエネルギーで、

米田早苗さん、扇谷治男さんらや北見放送劇団の仲間たちで「劇団河童」を結成した。菅原先生のあだな「河童」が会や

同人誌や劇団の名になった。先生の豪放な人柄が人を集め、その人脈が当時から現在に至るまで複雑にからみ合って、大きな山脈をつくったといっている。いま、第一線に立つ人の多くは、何らかの形で菅原先生の影響を受けて育ったといったら言い過ぎになるのか。否であろう。私も小中学校で菅原先生に絵を習った。

劇団河童の旗揚げ公演の時、菅原先生に声をかけられて「三角帽子」の舞台作りに「日か二日か、手伝いに行った。その時の演出担当が島田さんだった。島田さんは私が手伝ったことなど記憶にもないだろうが、その時以来すでに50年である。つかず、はなれず、それがまた絶妙の「間」を作ってくれていたようである。

伊藤公平(いとうこうへい)北見市在住、郷土史研究者。私設図書館「麦の風文庫」と「野草苑があでんきたみ」主宰。平成13年～20年、みんとに「ふるさと四方山話」「ふるさとそぞろ歩る記」を連載。